

# vSphere ホスト プロファイル ル

Update 2

2019 年 4 月 11 日

VMware vSphere 6.7

VMware ESXi 6.7

vCenter Server 6.7

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>)

**VMware, Inc.**  
3401 Hillview Ave.  
Palo Alto, CA 94304  
[www.vmware.com](http://www.vmware.com)

**VMware株式会社**  
〒108-0023 東京都港区芝浦 3-1-1  
田町ステーションタワー N 18 階  
[www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)

Copyright © 2009-2019 VMware, Inc. All rights reserved. 著作権および商標情報。

# 目次

vSphere® ホスト プロファイルについて	5
<b>1 vSphere ホスト プロファイルの概要</b>	<b>6</b>
ホスト プロファイルの使用モデル	6
リファレンス ホストの独立性	7
<b>2 ホスト プロファイルの使用</b>	<b>8</b>
ホスト プロファイルへのアクセス	8
ホスト プロファイルの作成	9
ホスト プロファイルからのエンティティの添付または分離	9
コンプライアンスの確認	10
コンプライアンス チェックのスケジュール設定	10
ホストの修正	11
ホスト プロファイルの編集	12
ポリシーの編集	13
ホスト プロファイル コンポーネントまたはサブプロファイルの無効化	16
ホスト プロファイルの複製	17
ホストから設定をコピー	17
ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy	17
ホスト プロファイルのインポート	18
ホスト プロファイルのエクスポート	18
ホスト プロファイルへの設定のコピー	19
<b>3 ホスト プロファイルの設定</b>	<b>20</b>
ホストのカスタマイズ	20
ホストのカスタマイズのエクスポート	24
ホストのカスタマイズの編集	25
セキュリティ ホスト プロファイルの設定	25
ネットワーク ホスト プロファイルの設定	26
<b>4 ホスト プロファイルの推奨アップグレード ワークフロー</b>	<b>28</b>
vCenter Server バージョン 6.0 からステートフル ESXi ホストのバージョンが 6.0 より前のバージョン 6.7 へのアップグレード	28
環境にステートフル ESXi5.5 および 6.0 ホストが含まれている	29
ステートフル ESXi 6.0 ホストのみが含まれる環境	30
vCenter Server バージョン 6.5 からステートフル ESXi ホストのバージョンが 6.5 より前のバージョン 6.7 へのアップグレード	30
ステートフル ESXi5.5、6.0、および 6.5 ホストが含まれる環境	31

ステートフル ESXi6.5 ホストのみが含まれる環境	32
ステートレス ESXi 6.0 ホストのみの環境での vCenter Server 6.0 から 6.7 へのアップデート	32
ステートレス ESXi6.5 ホストのみの環境での vCenter Server6.5 から 6.7 へのアップデート	33
応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出	34
<b>5 ホスト プロファイルのトラブルシューティング</b>	<b>37</b>
ホストのカスタマイズ データがない	37
リファレンス ホストが使用不可	38
ストレージ ホスト プロファイルのコンプライアンス エラー	38
シリアル接続 SCSI (SAS) デバイスのコンプライアンス エラー	39
SAN ブート LUN デバイスのコンプライアンス エラー	39
ホスト プロファイルの設定の編集の失敗	40
NFS データストアを使用しないホスト プロファイル	41
アップグレードしたホストにレガシーのホスト プロファイルとの互換性がない	41

# vSphere® ホスト プロファイルについて

『vSphere ホスト プロファイル』 ドキュメントでは、ホスト プロファイルの管理に関する情報を提供します。

『vSphere ホスト プロファイル』には、vSphere Client でホスト プロファイルを管理および構成する方法が記載されています。

## 対象読者

『vSphere ホスト プロファイル』は、vSphere のホスト構成に精通する管理者を対象としています。

## vSphere Client

本書の説明は、vSphere Client (HTML5 ベースの GUI) に対応しています。ここに記載のガイダンスは、vSphere Web Client (Flex ベースの GUI) を使用したタスクで使用できます。

vSphere Client と vSphere Web Client でワークフローが大きく異なるタスクでは、各クライアント インターフェイスに応じたステップが提供され、手順が重複しています。vSphere Web Client に関連する手順は、タイトルに vSphere Web Client が含まれています。

---

**注：** vSphere 6.7 Update 1 では、vSphere Web Client 機能のほぼすべてが vSphere Client に実装されています。サポート対象外の残りの機能を記載した最新のリストについては、「[vSphere Client の機能の更新](#)」を参照してください。

---

## vSphere Client でのホスト プロファイルの強化



vSphere Client でのホスト プロファイルの強化

([https://vmwaretv.vmware.com/embed/secure/iframe/entryId/1\\_nxpbv6o6/uiConfId/49694343/](https://vmwaretv.vmware.com/embed/secure/iframe/entryId/1_nxpbv6o6/uiConfId/49694343/))

# vSphere ホスト プロファイルの概要

# 1

ホスト プロファイル機能を使用してプロファイルを作成します。このプロファイルはホスト構成をカプセル化します。特に管理者が vCenter Server で複数のホストまたはクラスタを管理する環境では、ホストの構成を管理する場合に役立ちます。

ホスト プロファイルは、ホスト構成と構成のコンプライアンスを自動化し、統合管理するためのメカニズムを提供します。ホスト プロファイルを使用すると、反復的な手動タスクが減少するため、効率性が高まります。ホスト プロファイルは事前に設定され、検証されたリファレンス ホストの構成を取得し、管理対象オブジェクトとして設定を保存します。この設定に含まれているパラメータをカタログとして使用し、ネットワーク、ストレージ、セキュリティ、および他のホスト レベルのパラメータを設定します。ホスト プロファイルは個々のホスト、クラスタ、またはホスト プロファイルに関連付けられているすべてのホストおよびクラスタに適用できます。ホスト プロファイルをクラスタに適用すると、クラスタ内のすべてホストが影響を受け、適用されたホスト間で設定の一貫性が保たれます。

ホスト プロファイルでは、ホストまたはクラスタに関連付けられたホスト プロファイルと比較することで、ホストの構成のコンプライアンスを検証できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- ホスト プロファイルの使用モデル
- リファレンス ホストの独立性

## ホスト プロファイルの使用モデル

ホスト プロファイルのワークフローはリファレンス ホストの概念から開始します。リファレンス ホストの設定はホスト プロファイルとして抽出され、他のホストを設定する際の設定テンプレートとして機能します。リファレンス ホストから抽出されたホスト プロファイルにリファレンス ホストを関連付ける必要はありません。

開始する前に、少なくとも 1 台の適切に設定された ESXi ホストを持つ、vSphere がインストールされた環境を作成しておく必要があります。

リファレンス ホストからホスト プロファイルを作成し、そのホスト プロファイルをホストまたはクラスタに適用して、ホスト プロファイルに対してコンプライアンスを確認するために必要な順序は次のとおりです。

- 1 リファレンス ホストを設定して、構成します。
- 2 リファレンス ホストからホスト プロファイルを作成します。
- 3 ホストまたはクラスタをホスト プロファイルに添付します。
- 4 ホスト プロファイルに対してコンプライアンスを確認します。リファレンス ホストと準拠しているホストはすべて正しく構成されています。

## 5 適用（修正） します。

vSphere のライセンスが供与された機能として、ホスト プロファイルは適切なライセンスがある場合にのみ使用できません。エラーが発生する場合は、適切な vSphere のライセンスがホストにあることを確認してください。

ホスト プロファイルで認証にディレクトリ サービスを使用する場合は、ディレクトリ サービスを使用するようにリファレンス ホストを構成する必要があります。『vSphere Security』 ドキュメントを参照してください。

## vSphere Auto Deploy

vSphere Auto Deploy でプロビジョニングされたホストの場合、vSphere Client はホスト プロファイルで取得されるホスト構成全体を所有しています。通常は、ホスト プロファイル情報はすべての構成情報を保存するのに十分に対応できます。Auto Deploy でプロビジョニングしたホストが起動する際、ユーザーの入力が求められる場合があります。Auto Deploy の詳細については、『VMware ESXi のインストールとセットアップ』を参照してください。

## リファレンス ホストの独立性

ホスト プロファイルのタスクを実行するために専用のリファレンス ホストを使用する必要はありません。

ホスト プロファイルを作成する場合は、指定した ESXi リファレンス ホストから構成情報を抽出します。vSphere の以前のリリースでは、編集、インポート、エクスポートなど、ホスト プロファイルの特定のタスクを実行する場合、リファレンス ホストを使用する必要がありました。vSphere 6.0 以降では、これらのタスクを実行するために専用のリファレンス ホストを使用する必要はなくなりました。

リファレンス ホストが必要なホスト プロファイル タスクの場合は、ホスト プロファイルと互換性のある ESXi ホストが割り当てられ、リファレンス ホストの役割を果たします。

場合によっては、これらのタスクの実行中にホスト プロファイルの検証を行う、互換性のあるホストが利用できないことがあります。検証が不要なホスト プロファイルにわずかな変更を加えた場合は、検証をスキップすることができます。ホスト検証をスキップする場合は、有効なリファレンス ホストがプロファイルに関連付けられていないことを示す警告が表示されます。その後、処理を進めて、タスクを完了できます。

この機能が導入されたことで、ユーザーは vSphere Client からリファレンス ホストを編集または変更できなくなりました。リファレンス ホストの選択は実行時に行われ、進行中のタスクに関する通知は vCenter Server に表示されません。

# ホスト プロファイルの使用

# 2

このセクションでは、ホスト プロファイルの基本タスクの一部を実行する方法について説明します。

この章には、次のトピックが含まれています。

- ホスト プロファイルへのアクセス
- ホスト プロファイルの作成
- ホスト プロファイルからのエンティティの添付または分離
- コンプライアンスの確認
- コンプライアンス チェックのスケジュール設定
- ホストの修正
- ホスト プロファイルの編集
- ホスト プロファイルの複製
- ホストから設定をコピー
- ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy
- ホスト プロファイルのインポート
- ホスト プロファイルのエクスポート
- ホスト プロファイルへの設定のコピー

## ホスト プロファイルへのアクセス

ホスト プロファイルのメイン ビューには、使用可能なプロファイルがすべて一覧表示されます。システム管理者は、ホスト プロファイルのメイン ビューを使用して、ホスト プロファイルで操作を実行し、ホスト プロファイルを構成することもできます。

### 手順

- 1 ホーム メニューで、[ポリシーおよびプロファイル] をクリックします。
- 2 [ホスト プロファイル] を選択します。



## ホスト プロファイルの作成

指定したリファレンス ホストの構成を抽出してホスト プロファイルを作成します。

### 前提条件

稼働中の vSphere 環境と、リファレンス ホストとして機能する、完全かつ適切に構成されたホストが少なくとも 1 台あることを確認します。

### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動し、[ホスト プロファイルの抽出] をクリックします。
- 2 リファレンス ホストとなるホストを選択し、[次へ] をクリックします。  
有効なホストを選択する必要があります。
- 3 新しいプロファイルの名前および説明を入力して、[次へ] をクリックします。
- 4 新しいプロファイルの概要情報を確認し、[終了] をクリックします。

### 結果

新しいプロファイルが [ホスト プロファイル] ペインに表示されます。

---

**注：** ホスト プロファイルは、オフラインまたは認識されないデバイスをキャプチャしません。ホスト プロファイルの抽出後にオフライン デバイスを変更を加えても、コンプライアンス チェックの結果に違いは生じません。

---

## ホスト プロファイルからのエンティティの添付または分離

リファレンス ホストからホスト プロファイルを作成した後、ホスト プロファイルにホストまたはクラスタを添付します。ESXi のホストまたはクラスタ全体から設定の関連付けを解除するには、そのホストまたはクラスタをホスト プロファイルから分離する必要があります。

ホスト プロファイルがクラスタに添付されると、そのクラスタ内のホストもホスト プロファイルに添付されます。ただし、ホスト プロファイルをクラスタ全体から分離すると、ホストまたはクラスタ内のホストと、そのホスト プロファイルの関連付けはなくなります。ESXi のホストまたはクラスタからホスト プロファイルを分離しても、そのホスト プロファイルは削除されません。ホスト プロファイルは、関連付けられているすべてのエンティティから分離してから削除できます。

---

**注：** 特定のホストを右クリックして、[ホスト プロファイル] > [ホスト プロファイルの添付] または [ホスト プロファイル] > [ホスト プロファイルの分離] を選択し、ホスト プロファイルを添付または分離することもできます。このプロセスは無停止で行われます。

---

### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動します。
- 2 ホスト プロファイルを右クリックし、[ホストおよびクラスタの添付/分離...] を選択します。
- 3 ホストまたはクラスタをリストから選択するか、選択を解除して、[保存] をクリックします。  
[フィルタ] テキスト ボックスを使用して、ホストおよびクラスタ リストを検索できます。

## 結果

ホストまたはクラスタが選択したホスト プロファイルに追加されるか、そこから削除されます。

## コンプライアンスの確認

添付されたホスト プロファイルに対するホストまたはクラスタのコンプライアンスを確認できます。また、ホストとホスト プロファイルで指定された構成パラメータの違いを特定できます。

### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動します。
- 2 ホスト プロファイルを右クリックします。
- 3 [ホスト プロファイルのコンプライアンスの確認] をクリックします。

### 結果

コンプライアンス ステータスが、準拠、不明、または非準拠のいずれかに更新されます。

「非準拠」ステータスは、プロファイルとホスト間での特定の不整合が検出されたことを示します。これを解決するには、ホストを修正する必要があります。「不明」ステータスは、ホストのコンプライアンスを確認できないことを示します。この問題を解決するには、ホスト プロファイルを使用してホストを修正します。コンプライアンス チェックが失敗する原因の多くは、ホストの切断にあります。

---

**注：** ホスト プロファイルは、オフラインまたは認識されないデバイスをキャプチャしません。ホスト プロファイルの抽出後にオフライン デバイスを変更を加えても、コンプライアンス チェックの結果に違いは生じません。

---

### 次のステップ

コンプライアンスのエラーの詳細を確認する場合は、[ホスト プロファイル] メイン メニューから、直近のコンプライアンス チェックで1つ以上エラーが見つかったホスト プロファイルを選択します。コンプライアンス エラーのあるホストとホスト プロファイルとの間で異なるパラメータを詳細に表示するには、[監視] タブをクリックし、[コンプライアンス] ビューを選択します。次に、エラーが発生したホストを選択します。異なるパラメータがホストのリスト下部の [コンプライアンス] ウィンドウに表示されます。

## コンプライアンス チェックのスケジュール設定

vSphere Client の標準スケジュール設定タスク ワークフローを使用して、ホストまたはクラスタの定期的な標準コンプライアンス チェックをスケジュール設定できます。この自動化機能により、ホスト プロファイルで指定したものと異なる構成パラメータがあるかどうか判別されます。

### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動します。
- 2 対象のホスト プロファイルを選択し、[監視] タブに移動します。

- 3 [監視] タブで [スケジュール設定タスク] -> [新規スケジュール設定タスク] -> [コンプライアンスの確認] の順に選択します。

[新規タスクのスケジュール (コンプライアンスの確認)] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 4 (オプション) 新しいタスク名を入力します。

タスクの詳細は、[説明] テキスト ボックスに入力できます。

- 5 タスクを実行する頻度を選択します。

タスクの初回実行日時を延期して、終了日時をスケジュール設定できます。

- 6 (オプション) タスクが完了した後に通知を受け取るには、メール アドレスを入力します。

- 7 [タスクのスケジュール設定] をクリックします。

#### 結果

新規に作成したタスクは、[スケジュール設定タスク] リストに表示されます。

---

**注：** タスクを [編集]、[実行]、または [削除] できます。

---

#### 次のステップ

コンプライアンスの状態、コンプライアンス チェック、またはコンプライアンス エラーの詳細については、[コンプライアンスの確認] を参照してください。

## ホストの修正

コンプライアンス障害が発生した場合は、修正機能を使用してホスト プロファイル設定をホストに適用します。この処理によって、すべてのホスト プロファイル管理対象パラメータは、ホストに添付されているプロファイルの値に変更されます。

#### 前提条件

ホストにプロファイルが添付されていることを確認します。

#### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動します。
- 2 ホスト プロファイルを右クリックして、[修正] を選択します。

---

**注：** 特定のホスト プロファイル ポリシー設定では、修正後にホストを再起動する必要があります。その場合は、ホストをメンテナンス モードにするためのプロンプトが表示されます。修正前に、ホストをメンテナンス モードにするよう要求される場合もあります。完全に自動化された DRS クラスタ内のホストは、修正時にメンテナンス モードになります。ホストを修正するにはメンテナンス モードにする必要があります。DRS クラスタが完全に自動化されていない場合、修正前にメンテナンス モードに移行していないと、修正プロセスが停止します。

---

- 3 ホスト プロファイルを使用して修正するホストを選択します。

選択した各ホストにホスト プロファイルが適用されます。

- 4 (オプション) ホストのプロパティにカスタム値を指定するか、ホストのカスタム ファイルを選択してインポートします。

ホストをカスタマイズして [次へ] をクリックし、ホスト プロファイル ポリシーのユーザー入力パラメータを更新または変更します。

---

**注：** vSphere Auto Deploy の詳細については、[ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy](#) を参照してください。

---

- 5 [修正の事前チェック] をクリックして、選択したホストの修正準備状況を確認します。

このチェックを行うと、ホストで実行されるタスクのリストが生成されます。

- 6 修正プロセスの完了後にホストの再起動が必要な場合は、チェックボックスを選択してホストを再起動します。修正プロセス後にホストを手動で再起動する場合は、このチェックボックスを選択しないでください。

- 7 ホスト プロファイルの修正に必要なタスクを確認し、[終了] をクリックします。

#### 結果

コンプライアンス ステータスが更新されます。

## ホスト プロファイルの編集

ホスト プロファイルのポリシーの表示および編集、コンプライアンスを確認するポリシーの選択、およびポリシーの名前や説明の変更ができます。

#### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動します。
- 2 編集するホスト プロファイルを選択し、[設定] タブをクリックします。
- 3 [プロファイルの編集] をクリックします。
- 4 (オプション) [名前と説明] タブをクリックし、プロファイルの名前と説明を変更します。
- 5 [ホスト プロファイルの編集] ページで各カテゴリを展開し、特定のポリシーまたは設定を表示、編集します。

---

**注：** ホスト プロファイル ポリシーを編集する詳細な手順については、[ポリシーの編集](#) を参照してください。コンプライアンス チェックや修正に対してポリシーを有効または無効にする詳細な手順については、[ホスト プロファイル コンポーネントまたはサブプロファイルの無効化](#) を参照してください。

---

- 6 [すべて] のホスト プロファイル設定を表示したり、[お気に入り] の設定のみを表示したりできます。

星アイコンを使用して、設定をお気に入りに登録できます。登録された設定は [お気に入り] の設定に追加されません。

- 7 (オプション) 検索フィールドでは、表示する設定の名前と値をフィルタリングできます。

たとえば、**SNMP** と入力します。これにより、[SNMP] に関連するすべての設定が表示されます。

## 8 (オプション) ホストをカスタマイズします。

このプロファイルの使用可能な設定値を必要に応じて変更し、[保存] をクリックします。

---

**注：** ホストのカスタマイズ設定ページは、ホストのカスタマイズが必要な設定を変更した場合にのみ表示されます。

---

### 結果

[最近のタスク] ステータスで「ホスト プロファイルを更新します」タスクが完了したら、変更が実行されます。タスクの完了前にプロファイルの修正を試みると、プロファイル構成には変更が反映されません。

## ポリシーの編集

ポリシーには、特定の設定を適用する方法が記述されています。特定のホスト プロファイルに含まれるポリシーを編集できます。

ホスト プロファイルを編集するときに、ホスト プロファイル構成の階層を展開して、ホスト プロファイルを構成するサブプロファイルのコンポーネントを表示できます。特定のパラメータを見つけやすくするため、これらのコンポーネントは機能グループやリソース クラスごとに分類されています。各サブプロファイル コンポーネントには、ポリシーやコンプライアンス チェックのほか、1つ以上の属性やパラメータが含まれます。

各ポリシーは1つ以上のオプションで構成され、各オプションには1つ以上のパラメータが含まれています。各パラメータは1つのキーと1つの値で構成されます。値は、integer 型、string 型、string 配列、または integer 配列などの基本的な型のいずれかになります。

---

**注：** 現在、このリリースで廃止されたポリシー オプション、ポリシー、サブプロファイルを削除または置き換える方法がありません。古いホスト プロファイルを引き続き使用できるように、これらの廃止されたポリシーにメタデータが追加されていますが、ホスト プロファイルの廃止されていない部分のみを使用して新しいホスト プロファイルが抽出されます。

---

表 2-1. ホスト プロファイル サブプロファイル構成のサブセット

コンポーネント カテゴリ	設定	注記および例
詳細設定	詳細オプション、エージェント仮想マシン、DirectPath I/O、ホスト ファイル、電力システム、システム イメージ キャッシュ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 詳細設定がデフォルト設定と同じ場合、ホスト プロファイルでは詳細設定はチェックされません。vCenter Server では、変更された、またはデフォルト値とは異なる詳細設定だけがコピーされます。さらに、コンプライアンス チェックの対象は、コピーされた設定に限定されます。</li> <li>■ ホスト プロファイルでは、ESXi ホスト上の仮想マシン バススルーに対する PCI デバイスの構成はサポートされません。</li> </ul>
全般システム設定	コンソール、コア ダンプ、デバイス エイリアス、ホスト キャッシュ、カーネル モジュール、管理エージェント、システム リソース プール、システム スワップ、vFlash ホスト スワップ キャッシュ、CIM-XML インディケーションのサブスクリプション	<p>日時の設定：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ タイム ゾーンに UTC 文字列を入力します。たとえば、米国の太平洋タイム ゾーンの場合、「America/Los_Angeles」と入力します。</li> <li>■ デフォルトのタイム ゾーンは、vSphere Web Client マシンのローカルの時刻と場所に設定されません。</li> <li>■ ネットワーク時間プロトコル (NTP) を正しく設定します。NTP 設定は、ホストの [構成] タブで設定できます。[時間の構成] ([システム] の下) をクリックします。[編集] をクリックして時刻設定を行います。</li> </ul> <p><b>注：</b> ホスト キャッシュ全体のサイズ (GB) を MB 単位で入力します。たとえば、1,024 MB と入力します。</p>
ネットワーク	vSwitch、ポート グループ、物理 NIC の速度、セキュリティと NIC チューニングのポリシー、vSphere Distributed Switch、および vSphere Distributed Switch のアップリンク ポート。	ネットワーク サブプロファイルで DHCPv6 が有効な場合は、ファイアウォール サブプロファイルにある対応するルールセットを手動で有効にしてください。

表 2-1. ホスト プロファイル サブプロファイル構成のサブセット (続き)

コンポーネント カテゴリ	設定	注記および例
セキュリティ	ファイアウォール、セキュリティ設定、サービス	
ストレージ	NMP (ネイティブ マルチパス)、PSA (プラグ可能ストレージ アーキテクチャ)、FCoE および iSCSI アダプタ、NFS ストレージを含めたストレージ オプションを構成します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ vSphere CLI を使用して、リファレンス ホストで NMP および PSA ポリシーを設定または変更し、そのホストからホスト プロファイルを抽出します。プロファイル エディタを使用してポリシーを編集する場合は、コンプライアンスに準拠しない事態を避けるために、NMP ポリシーと PSA ポリシー間の相互関係、個々のポリシーを変更したことで生じる結果について理解しておく必要があります。NMP および PSA の詳細については、『vSphere のストレージ』ドキュメントを参照してください。</li> <li>■ リファレンス ホストからホスト プロファイルを抽出する前にデバイス属性を変更するルールを追加します。ホスト プロファイルにホストを添付した後、デバイスのパスをマスクしたり、デバイスを SSD としてマークする SATP ルールを追加するなど、プロファイルを編集してデバイス属性を変更する場合は、変更を適用するためにホストを再起動するように促すメッセージが表示されます。ただし、属性が変わったため、再起動後、コンプライアンスに準拠しない事態が起こります。再起動前にホスト プロファイルがデバイスの属性を抽出するため、再起動の後に何らかの変化があると、それらの変化を特定して評価し、非準拠として報告します。</li> <li>■ vSphere Web Client を使用して、ホスト プロファイルを抽出した後に SatpDeviceProfile ポリシーを設定または変更します。コンプライアンスの観点から、ポリシー オプションの文字列は次の形式にする必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SATP_ALUA など、ALUA 対応の配列の場合は、ポリシー オプションをセミコロン (;) で区切ります。</li> </ul> <p>例 :</p> <pre>implicit_support=&lt;on/off&gt;; explicit_support=&lt;on/off&gt;; action_onRetryErrors=&lt;on/off&gt;</pre> </li> <li>■ SATP_ALUA_CX など、CX を含む ALUA 対応の配列の場合は、ポリシー オプションをセミコロン (;) で区切ります。</li> </ul> <p>例 :</p> <pre>navireg=&lt;on/off&gt;; implicit_support=&lt;on/off&gt;; action_onRetryErrors=&lt;on/off&gt;</pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SATP_CX、SATP_INV など、CX 配列の場合は、ポリシー オプションはスペースで区切ります。</li> </ul>

表 2-1. ホスト プロファイル サブプロファイル構成のサブセット (続き)

コンポーネント カテゴリ	設定	注記および例
		例： <pre>navireg=&lt;on/off&gt; ipfilter=&lt;on/off&gt; action_onRetryErrors=&lt;on/off&gt;</pre>
		<b>注：</b> <code>off</code> とマークされているポリシー設定オプションは、設定文字列にはありません。

ほかのプロファイル構成のカテゴリには、ユーザー グループ、認証、カーネル モード、DCUI キーボード、ホスト キャッシュ設定、SFCB、リソース プール、ログイン バナー、SNMP エージェント、電力システム、および CIM インディケーション サブスクリプションがあります。

#### 手順

- 1 ホスト プロファイルを編集します。
- 2 編集するポリシーに到達するまで、サブプロファイルを展開します。
- 3 ポリシーを選択します。  
ポリシーのオプションとパラメータが [ホスト プロファイルの編集] ウィンドウの右側に表示されます。
- 4 ポリシーに変更を加えます。

## ホスト プロファイル コンポーネントまたはサブプロファイルの無効化

コンプライアンス チェック中に、ホスト プロファイル コンポーネントまたはサブプロファイルを適用または考慮するかどうかを指定できます。この処理により、システム管理者は、重要度の低い属性の考慮を排除できるほか、ホスト プロファイルの一部でありながらホスト間で変化する可能性のある値を無視することができます。

#### 手順

- 1 ホスト プロファイルを編集します。
- 2 目的のコンポーネントまたはコンポーネント要素に達するまで、ホスト プロファイル コンポーネントの階層を展開します。
- 3 コンポーネントの横にあるチェック ボックスを無効にします。  
チェック ボックスは、デフォルトで有効になっています。チェック ボックスを無効にしても、他の有効なサブプロファイルは引き続き適用され、選択されたままです。

#### 結果

コンポーネントまたはコンポーネント要素が、プロファイルのコンプライアンス チェック中に考慮されたり、修正中に適用されることはありません。

**注：** 場合によっては、チェック ボックスを無効にすると、コンポーネントまたはコンポーネント要素がホストから削除されます。この処理は、事前チェック修正後に、タスク リストに表示されます。



## ホスト プロファイルの複製

ホスト プロファイルの複製は、既存のホスト プロファイルのコピーです。

### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] のメイン ビューに移動し、複製するホスト プロファイルを選択します。
- 2 [プロファイルの複製] をクリックします。
- 3 複製するホスト プロファイルに別の名前と説明を入力し、[次へ] をクリックします。

### 結果

プロファイルのクローンがホスト プロファイル リストに表示されます。

## ホストから設定をコピー

リファレンス ホストの構成が変更された場合、リファレンス ホストの新しい構成と一致するようにホスト プロファイルを更新できます。

ホスト プロファイルを作成した後、プロファイルを段階的に更新できます。ホスト プロファイルに変更を加える場合は、次の 2 つの方法の利点と制限を検討してください。

- ホストの構成を変更し、そのホストの設定をプロファイルにコピーします。既存のプロファイル内の設定は、ホストの設定と一致するように更新されます。この方法を使用すると、プロファイルに添付されている他のホストに構成をロールする前に、単一ホスト上の構成を検証できます。
- ホスト プロファイルを編集して、プロファイルを直接更新する。この方法では、より包括的にすばやく変更を修正できます。

---

**注：** 修正されたユーザー パスワード、システム イメージ キャッシュ、およびホストのカスタマイズ設定の一部は、新たに更新されたホスト プロファイル内にありません。ホスト プロファイルを編集して、これらの設定を更新します。

---

### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動し、ホスト プロファイルを選択します。
- 2 [ホストから設定をコピー] をクリックします。
- 3 構成設定のコピー元となるホストを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

## ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy

ホスト プロファイルは、vSphere Auto Deploy と連動し、仮想スイッチ、ドライバ設定、起動パラメータなどの構成状態が完全で予想どおりの物理 ESXi ホストをプロビジョニングします。

Auto Deploy でプロビジョニングされたホストはステートレスと見なされるため、構成状態の情報はホストに保存されません。代わりに、参照ホストを作成して希望の設定で完全に構成します。次に、この参照ホストを使用してホスト プロファイルを作成します。次に、PowerCLI で Auto Deploy ルール エンジンを使用してホスト プロファイル 新しいデプロイ ルールに関連付けます。これで、新しいホストが Auto Deploy を通してプロビジョニングされると、自動的にホスト プロファイルが適用されるようになります。

これらのホストへの修正は、ステートフルにデプロイされたホストと同じです。ホスト プロファイルの適用時に、ユーザーは、ホストをカスタマイズしホスト プロファイルの作成中に指定されるポリシーへの応答を入力するように求められます。

---

**注：** Auto Deploy を介して ESXi をデプロイする場合は、ログをリモート サーバに保存するように syslog を構成します。手順については、『vSphere のインストールとセットアップ』ドキュメントの「ホスト プロファイル インターフェイスからの syslog の設定」を参照してください。

---

詳細については、vSphere Auto Deploy ドキュメントの「Auto Deploy の参照ホストの設定」を参照してください。

## ホスト プロファイルのインポート

プロファイルは、VMware プロファイル形式（.vpf）のファイルからインポートできます。

ホスト プロファイルをエクスポートしても、管理者およびユーザー プロファイルのパスワードはエクスポートされません。このセキュリティ措置により、プロファイルをエクスポートしたときにパスワードがプレーン テキストにエクスポートされることがなくなります。プロファイルをインポートしたあとにパスワードの値を再入力するよう求められ、それからパスワードがホストに適用されます。

### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動します。
- 2 [ホスト プロファイルのインポート] をクリックします。
- 3 [参照] をクリックし、VMware プロファイル形式のファイル（.vpf）を探してインポートします。
- 4 インポートするホスト プロファイルの [名前] および [説明] を入力し、[OK] をクリックします。

### 結果

インポートされたプロファイルがプロファイル リストに表示されます。

## ホスト プロファイルのエクスポート

プロファイルは、VMware プロファイル形式（.vpf）のファイルにエクスポートできます。

ホスト プロファイルをエクスポートしても、管理者およびユーザー プロファイルのパスワードはエクスポートされません。このセキュリティ措置により、プロファイルをエクスポートしたときにパスワードがプレーン テキストにエクスポートされることがなくなります。プロファイルをインポートしたあとにパスワードの値を再入力するよう求められ、それからパスワードがホストに適用されます。

#### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動します。
- 2 プロファイルを右クリックし、[ホスト プロファイルのエクスポート] を選択します。
- 3 [[保存]] をクリックします。
- 4 (オプション) プロファイルをエクスポートするファイルの場所を選択し、名前を入力します。この手順は vSphere Web Client にのみ適用できます。

## ホスト プロファイルへの設定のコピー

ホスト プロファイルを変更したら、インベントリ内の他のホスト プロファイルにこれらの変更を適用することができます。

#### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動します。
- 2 プロファイルを右クリックし、[ホスト プロファイルへの設定のコピー] を選択します。
- 3 他のホスト プロファイルにコピーする設定を選択して、[次へ] をクリックします。
- 4 選択した設定で上書きされるターゲット ホスト プロファイルを選択して、[次へ] をクリックします。

ホスト プロファイル設定の違いは、[設定の確認] ページに表示されます。

- 5 [終了] をクリックします。

# ホスト プロファイルの設定

# 3

このセクションでは、ホスト プロファイル エディタを使用してホスト プロファイルを設定する方法を説明します。

この章には、次のトピックが含まれています。

- ホストのカスタマイズ
- セキュリティ ホスト プロファイルの設定
- ネットワーク ホスト プロファイルの設定

## ホストのカスタマイズ

リファレンス ホストにホスト プロファイルを作成すると、共有属性を使用した複数のホストをカスタマイズできます。ホストを個別にカスタマイズするには、各ホストでユーザーに入力を求めるように、ホスト プロファイル内のいくつかのフィールドを設定します。

ホスト プロファイルを使用すると、リファレンス ホストのストレージ設定や Syslog 設定などの情報を事前に指定できます。また、作成したホスト プロファイルは、同じ設定を持つ一連のターゲット ホストに適用できます。さらに、ホスト プロファイルを使用して、ホスト固有の設定を指定することができます。この場合、Auto Deploy でホストをプロビジョニングすると、ホストはメンテナンス モードで起動します。ホストを修正するか、ホストのカスタマイズをリセットして、入力プロンプトを表示します。ユーザーが入力した情報はシステムに保存され、次回のホスト起動時に使用されます。

ユーザー入力を求めるようにホスト プロファイルが設定されており、ホストのカスタマイズをリセットする場合、表示されるダイアログに値を指定する必要があります。値を指定しないと、エラーが発生します。

表 3-1. iSCSI のユーザー入力を求めるホスト プロファイル オプション

ユーザー入力を要求する情報	ホスト プロファイル オプションの設定方法
<p>iSCSI のプロファイルが含まれるシステムにホスト プロファイルを適用する場合は、いくつかのプロパティの指定が求められます。それらのプロパティの多くには、システムのデフォルト値が適用されます。一部のプロパティでは、値を指定しないとエラーが発生します。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して [ストレージ構成] &gt; し、[iSCSI イニシエータ構成] をクリックします。</li> <li>2 すでに有効になっているイニシエータのフォルダを選択し、イニシエータを設定します。</li> <li>3 イニシエータを設定します。ホストのカスタマイズの一部として、多くのフィールドでユーザー入力が求められます。</li> </ol>
<p><b>IQN 名</b></p> <p>iSCSI の設定で IQN 名が使用されている場合、ホスト プロファイルを適用する際に入力が求められます。名前を指定するまで続行することはできません。</p>	
<p><b>CHAP 情報</b></p> <p>CHAP 認証を要求するように iSCSI を設定している場合は、ホスト プロファイルを適用する際に、ユーザー名やシークレットを含む CHAP 情報の入力を求められます。名前を指定するまで続行することはできません。</p>	

表 3-2. ストレージのユーザー入力を求めるホスト プロファイル オプション

ユーザー入力を要求する情報	ホスト プロファイル オプションの設定方法
<p>固定のバス選択ポリシー (PSP) を設定する際に、固定 PSP を使用するストレージ アレイのアダプタおよびターゲット ID の入力を求めるプロンプトが表示されるようにします。</p>	<p>このオプションは、固定 PSP を使用するようにアダプタが設定されている場合にのみ使用できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して、[ストレージ構成] をクリックします。</li> <li>2 [ネイティブ マルチバス (NMP)] をクリックします。</li> <li>3 [バス選択ポリシー (PSP) の構成] をクリックします。</li> <li>4 [優先バス] ウィンドウで、[ユーザーにホスト上のアダプタ ID とターゲット ID を入力するプロンプトを表示] を選択します。</li> </ol>
<p>FCoE アダプタのアクティベーションを、ユーザー指定の MAC アドレスに基づいて構成します。</p>	<p>このオプションは、アクティベーション プロファイルが存在する場合にのみ設定できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して、[ストレージ構成] をクリックします。</li> <li>2 [ソフトウェア FCoE 構成] をクリックします。</li> <li>3 [アダプタの構成] をクリックします。</li> <li>4 [アクティベーション プロファイル] を選択し、[ポリシー プロファイル] をクリックします。</li> <li>5 ドロップダウン メニューから [アダプタの MAC アドレスに基づくアクティベーション ポリシー] を選択します。</li> </ol>

表 3-3. セキュリティのユーザー入力を求めるホスト プロファイル オプション

ユーザー入力を要求する情報	ホスト プロファイル オプションの設定方法
<p>ホストが最初に起動するときに、ESXi ホストの管理者パスワードを要求します。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して、[セキュリティおよびサービス] をクリックします。</li> <li>2 [セキュリティの設定] &gt; [セキュリティ構成] の順にクリックします。</li> <li>3 右側のパネルで、[管理者パスワード] ドロップダウン メニューから [ユーザーが入力したパスワードを使用して管理者パスワードを構成する] を選択します。</li> </ol>
<p>ESXi ホストのユーザーは事前に構成しますが、ユーザーのパスワードは、ホストの初回起動時に各ホストで要求します。</p>	<p>このタスクは、ユーザー設定がすでに存在している場合にのみ実行できます。オプションのいずれかを選択してユーザーを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [固定ユーザー構成を割り当て] は、ESX/ESXi 4.1 システムとの互換性を提供するためのオプションで、パスワードが暗号化されずに表示されます。</li> <li>■ [詳細な固定ユーザー構成を割り当て] は、ESXi 5.0 以降のシステムのユーザー向けのオプションです。</li> <li>■ [プロファイルにユーザー構成を指定 (ホスト構成中にパスワードの入力が必要)] を選択すると、ユーザーに関する情報を指定し、各ホストでパスワードの入カプロンプトを表示できます。</li> </ul>
<p>ホストが Active Directory ドメインに参加するとき、ユーザーに認証情報の入力を要求します。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 固定ドメインを使用するように認証の構成プロファイルを設定します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>a [ホスト プロファイルの編集] を選択して、[セキュリティおよびサービス] をクリックします。</li> <li>b [セキュリティの設定] &gt; [認証の構成] の順にクリックします。</li> <li>c [Active Directory の構成] をクリックします。</li> <li>d [ドメイン名] ドロップダウン メニューで、[固定ドメイン名を構成] を選択します。</li> </ol> </li> <li>2 ドメインへの参加方法の入力をユーザーに求めるように設定します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>a [ホスト プロファイルの編集] を選択して [セキュリティおよびサービス] をクリックし、[認証の構成] をクリックします。</li> <li>b [Active Directory の構成] をクリックします。</li> <li>c [ドメインへの参加方法] ドロップダウン メニューで、[ユーザー指定の AD 認証情報を使用してホストをドメインに参加] を選択します。</li> </ol> </li> </ol>

表 3-4. ネットワークのユーザー入力を求めるホスト プロファイル オプション

ユーザー入力を要求する情報	ホスト プロファイル オプションの設定方法
<p>ポート グループの MAC アドレスの入力をユーザーに求めます。システム プロンプトを必ず表示して、ユーザー指定の MAC アドレスの入力を求めることも、デフォルト値が設定されていない場合にのみプロンプトを表示することもできます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して [ネットワーク構成] &gt; [ホスト ポート グループ] の順にクリックします。</li> <li>2 [管理ネットワーク] をクリックします。</li> <li>3 [vmknic の MAC アドレスを決定する方法を確認] フィールドで、システムが MAC アドレスをどのように処理するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [構成を適用中に使用されるユーザー指定の MAC アドレス]</li> <li>■ [デフォルトが利用不能の場合は、ユーザーに MAC アドレスを入力するプロンプトを表示]</li> </ul> </li> </ol>
<p>プロファイルを適用する ESXi ホストごとに、IPv4 アドレスの入力をユーザーに求めます。システム プロンプトを必ず表示して、ユーザー指定の IPv4 アドレスの入力を求めることも、デフォルト値が設定されていない場合にのみプロンプトを表示することもできます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して [ネットワーク構成] &gt; [ホスト ポート グループ] の順にクリックします。</li> <li>2 [管理ネットワーク] &gt; [IP アドレス設定] の順にクリックします。</li> <li>3 [IPv4 アドレス] フィールドで、システムが IPv4 アドレスをどのように処理するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [構成を適用中に使用されるユーザー指定の IPv4 アドレス]</li> <li>■ [デフォルトが利用不能の場合は、ユーザーに IPv4 アドレスを入力するプロンプトを表示]</li> </ul> </li> </ol>
<p>プロファイルを適用する ESXi ホストごとに、IPv6 アドレスの入力をユーザーに求めます。システム プロンプトを必ず表示して、ユーザー指定の IPv6 アドレスの入力を求めることも、デフォルト値が設定されていない場合にのみプロンプトを表示することもできます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して [ネットワーク構成] &gt; [ホスト ポート グループ] の順にクリックします。</li> <li>2 [管理ネットワーク] &gt; [IP アドレス設定] の順にクリックします。</li> <li>3 [固定 IPv6 アドレス] フィールドで、システムが IPv6 アドレスをどのように処理するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [構成を適用中に使用されるユーザー指定の IPv6 アドレス]</li> <li>■ [デフォルトが利用不能の場合は、ユーザーに IPv6 アドレスを入力するプロンプトを表示]</li> </ul> </li> </ol>
<p>ホストの DNS 名の入力をユーザーに求めます。システム プロンプトを必ず表示して、ユーザー指定のホスト名の入力を求めることも、デフォルト値が設定されていない場合にのみプロンプトを表示することもできます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して [ネットワーク構成] &gt; [DNS 構成] の順にクリックします。</li> <li>2 [ホスト名] フィールドで、システムが DNS 設定をどのように処理するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [デフォルトが利用不能の場合、ユーザーにホスト名を入力するプロンプトを表示]</li> <li>■ [構成を適用中に使用されるユーザー指定のホスト名]</li> </ul> </li> </ol>
<p>Distributed Switch の MAC アドレス、ポート グループ、またはサービスの 1 つを入力するようにユーザーに求めます。ホストの仮想 NIC フォルダのアイコンを右クリックし、[サブプロファイルの追加] アイコンをクリックして設定の適用先コンポーネントを決定します。デフォルト値が設定されていない場合にのみプロンプトを表示するか、必ずプロンプトを表示するかを指定できます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ネットワーク構成] を開きます。</li> <li>2 [ホスト仮想 NIC] をクリックします。</li> <li>3 [vmknic の MAC アドレスを決定する方法を決定] フィールドで、システムが分散スイッチの MAC アドレスをどのように処理するかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [構成を適用中に使用されるユーザー指定の MAC アドレス]</li> <li>■ [デフォルトが利用不能の場合は、ユーザーに MAC アドレスを入力するプロンプトを表示]</li> </ul> </li> </ol>

表 3-4. ネットワークのユーザー入力を求めるホスト プロファイル オプション (続き)

ユーザー入力を要求する情報	ホスト プロファイル オプションの設定方法
Distributed Switch の IPv4 アドレス、ポート グループ、またはサービスの 1 つを入力するようにユーザーに求めます。ホストの仮想 NIC フォルダのアイコンを右クリックし、[サブプロファイルの追加] アイコンをクリックして設定の適用先コンポーネントを決定します。デフォルト値が設定されていない場合にのみプロンプトを表示するか、必ずプロンプトを表示するかを指定できます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ネットワーク構成] を開きます。</li> <li>2 [ホスト仮想 NIC] をクリックします。</li> <li>3 [IP アドレス設定] をクリックします。</li> <li>4 [IPv4 アドレス] フィールドで、システムが分散スイッチの IPv4 アドレスどのように処理するか選択します。               <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [構成を適用中に使用されるユーザー指定の IPv4 アドレス]</li> <li>■ [デフォルトが利用不能の場合は、ユーザーに IPv4 アドレスを入力するプロンプトを表示]</li> </ul> </li> </ol>
Distributed Switch の IPv6 アドレス、ポート グループ、またはサービスの 1 つを入力するようにユーザーに求めます。ホストの仮想 NIC フォルダのアイコンを右クリックし、[サブプロファイルの追加] アイコンをクリックして設定の適用先コンポーネントを決定します。デフォルト値が設定されていない場合にのみプロンプトを表示するか、必ずプロンプトを表示するかを指定できます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ネットワーク構成] を開きます。</li> <li>2 [ホスト仮想 NIC] を開きます。</li> <li>3 [IP アドレス設定] を開きます。</li> <li>4 [固定 IPv6 アドレス] フィールドで、システムが分散スイッチの IPv6 アドレスをどのように処理するか選択します。               <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [構成を適用中に使用されるユーザー指定の IPv6 アドレス]</li> <li>■ [デフォルトが利用不能の場合は、ユーザーに IPv6 アドレスを入力するプロンプトを表示]</li> </ul> </li> </ol>

## ホストのカスタマイズのエクスポート

ホスト プロファイルにカスタム属性が含まれている場合は、その属性をデスクトップの .CSV ファイルにエクスポートできます。

セキュリティ上の理由から、パスワードなどの機密データはエクスポートされません。

**注：** 特定のホストを右クリックして [ホスト プロファイル] > [ホスト プロファイル カスタマイズのエクスポート] の順に選択し、ホスト プロファイル カスタマイズをエクスポートすることもできます。

### 手順

- 1 ホスト プロファイルメイン ビューに移動します。
- 2 ホスト プロファイルを右クリックして、[ホストのカスタマイズのエクスポート] を選択します。
- 3 カスタム ファイルの保存場所を選択します。  
ファイルは .csv ファイルとして保存されています。
- 4 [保存] をクリックします。

**注：** サポートされているのは、英語版の .csv ファイルのみです。

### 次のステップ

このファイルをデスクトップに保存したら、ファイルを手動で編集して、カスタム値を後で適用できるように保存します。



## ホストのカスタマイズの編集

ホスト プロファイルに接続された特定のホスト、またはホスト プロファイルに添付されたクラスタのホストのカスタマイズを編集できます。

### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動します。
- 2 ホスト プロファイルを右クリックして、[ホストのカスタマイズの編集] を選択します。
- 3 カスタマイズを編集するホストを選択して、[次へ] をクリックします。
- 4 (オプション) [ホストのカスタマイズ] ページで、[ホストのカスタマイズのインポート] を使用してデスクトップから .csv ファイルをインポートできます。

---

**注:** インポート プロセスを実行して、.csv ファイルから値をインポートすると、[ホストのカスタマイズ] ページにユーザーが入力した内容が上書きされます。

---

.csv ファイルをインポートすると、テキスト ボックスがファイル内の情報を使用して更新されます。

- 5 ホスト設定の値を編集します。
- 6 [終了] をクリックします。

## セキュリティ ホスト プロファイルの設定

この手順を使用して、ロール、ユーザー アカウント、およびセキュリティ ホスト プロファイルの一部としてグループ化された Active Directory の権限プロファイルを管理します。

セキュリティ プロファイルの一部であるホスト プロファイル オプションを設定することができます。

### 前提条件

ロール、ユーザー アカウント、および Active Directory の権限プロファイルの間には依存関係があるため、これらの検証に利用できる SecurityConfigProfile プラグインがあることを確認してください。

### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動します。
- 2 編集するホスト プロファイルを選択し、[設定] タブをクリックします。
- 3 [プロファイルの編集] をクリックします。
- 4 [セキュリティおよびサービス] > [セキュリティ設定] の順にプロファイル カテゴリを展開し、[セキュリティ] フォルダを開きます。

次のプロファイルが表示されます。

ロール	このプロファイルを使用して、デフォルトのロールを表示し、ESXi システム内にカスタム ロールを追加できます。
ユーザー設定	このプロファイルを使用して、ユーザー アカウントを作成および管理できます。 ユーザー アカウントに対して実行できる操作は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ユーザー アカウントを作成します。</li> <li>■ ユーザー アカウントのパスワードを設定します。</li> <li>■ root ユーザーのパスワードを構成します。</li> <li>■ デフォルトのユーザーではないユーザーのロールを構成します。</li> <li>■ ローカル アカウントにデフォルト ロールまたはカスタム ロールを割り当てます（権限を設定します）。</li> <li>■ 任意のユーザーの SSH 鍵を設定します。</li> </ul>
Active Directory 権限	このプロファイルを使用して、Active Directory のユーザーまたはグループの権限を管理できます。たとえば、Active Directory のユーザーまたはグループをロールに関連付ける権限を作成できます。 ESXi ホストが Active Directory ドメインに参加すると、DOMAIN グループ [ESX Admins] の管理者権限が作成されます。また、Active Directory のユーザーまたはグループに ESXi ホストに対する権限が付与されると、そのホスト上で対応する権限が作成されます。Active Directory 権限プロファイルはその権限を取得します。
ロックダウン モード	このプロファイルを使用して、ユーザーの権限を制限することで、ESXi ホストのセキュリティを強化できます。 次のロックダウン モードを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 通常ロックダウン モード：ESXi ホストにはローカル コンソールと vCenter Server からアクセスできます。DCUI サービスは停止しません。</li> <li>■ 厳密なロックダウン モード：ESXi ホストには vCenter Server からのみアクセスできます。DCUI サービス停止。</li> <li>■ 例外ユーザー：ロックダウン モードの状態に関係なく、自分に付与された権限を維持するユーザー。</li> </ul>

セキュリティ プロファイルの詳細については、『vSphere セキュリティ』ドキュメントを参照してください。

## ネットワーク ホスト プロファイルの設定

デフォルトでは、vSphere Auto Deploy でプロビジョニングされるホストには、DHCP サーバから DHCP アドレスが割り当てられます。vSphere Auto Deploy が提供するホストのカスタマイズ メカニズムを使用して、ホストに固定 IP アドレスを割り当てることができます。

### 前提条件

- vSphere Auto Deploy 環境をセットアップする。
- vSphere Auto Deploy を使用してホストを起動する。
- ホストからホスト プロファイルを抽出する。

### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] メイン ビューに移動します。
- 2 編集するホスト プロファイルを選択し、[設定] タブをクリックします。
- 3 [プロファイルの編集] をクリックします。
- 4 [ネットワーク構成] - [ホスト ポート グループ] - [管理ネットワーク] - [IP アドレス設定] の順にクリックして、デフォルトの IP アドレス設定を変更します。
- 5 [IPv4 アドレス] ドロップダウン メニューから、[構成を適用中に使用されるユーザー指定の IP アドレス] を選択します。

- 6 ホストが vCenter Server システムとは別のサブネット内にある場合は、[ネットワーク構成] - [Netstack インスタンス] - [defaultTcpiStack] - [DNS 構成] の順に選択し、[デフォルト IPv4 ゲートウェイ] テキストボックスにデフォルトのルートを入力します。
- 7 [ネットワーク構成] - [NetStack インスタンス] - [defaultTcpiStack] - [DNS 構成] の順に選択します。
- 8 [DHCP を使用する必要があることを示すフラグ] チェック ボックスが選択解除されていることを確認します。
- 9 ホストを右クリックして、[すべての vCenter アクション] - [ホスト プロファイル] - [ホスト プロファイルの添付] の順に選択します。
- 10 添付するプロファイルを選択して、[次へ] をクリックします。
- 11 IP アドレスとネット マスクを指定して、[終了] をクリックします。
- 12 ESXi ホストを再起動します。

#### 結果

カスタマイズされた IP アドレスが保存され、ホストに適用されます。

# ホスト プロファイルの推奨アップグレード ワークフロー

# 4

各ワークフローは、バージョン 5.5、6.0、および 6.5 のホスト プロファイルを 1 つ以上含む vCenter Server 6.0 および 6.5 環境のアップデート中に推奨されるアップグレード パスです。

## アップグレードのサポート マトリックス

vCenter Server をバージョン 6.0 または 6.5 からバージョン 6.7 にアップデートすると、ESXi ホストの現在のバージョンおよびホスト プロファイルのバージョンを保持できます。その他のアップグレード ワークフローについては、「アップグレードのサポート マトリックス」を参照してください。

表 4-1. アップグレードのサポート マトリックス

アップグレードのワークフロー	vCenter Server	ESXi ホスト	ホスト プロファイル
5.5 より前 -> 5.5 / 6.0 / 6.5 -> 6.7	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要
5.5-> 6.7	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要
6.0-> 6.7	アップグレードが必要	オプションのアップグレード	オプションのアップグレード
6.5-> 6.7	アップグレードが必要	オプションのアップグレード	オプションのアップグレード

この章には、次のトピックが含まれています。

- vCenter Server バージョン 6.0 からステートフル ESXi ホストのバージョンが 6.0 より前のバージョン 6.7 へのアップグレード
- vCenter Server バージョン 6.5 からステートフル ESXi ホストのバージョンが 6.5 より前のバージョン 6.7 へのアップグレード
- ステートレス ESXi 6.0 ホストのみの環境での vCenter Server 6.0 から 6.7 へのアップデート
- ステートレス ESXi 6.5 ホストのみの環境での vCenter Server 6.5 から 6.7 へのアップデート
- 応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出

## vCenter Server バージョン 6.0 からステートフル ESXi ホストのバージョンが 6.0 より前のバージョン 6.7 へのアップグレード

バージョン 6.0 の vCenter Server をバージョン 6.7 にアップグレードするときに発生するバージョン コンプライアンス エラーを解決するには、アップグレード ワークフローを使用します。

## 環境にステートフル ESXi5.5 および 6.0 ホストが含まれている

クラスタにステートフル ESXi5.5 および ESXi 6.0 ホストが含まれている場合は、既存のワークフローを使用して、vCenter Server のバージョンを 6.0 から 6.7 にアップデートする際のバージョン コンプライアンス エラーを解決します。

### 前提条件

- クラスタに ESXi5.5 および ESXi 6.0 ホストが含まれています。
- バージョン 5.5 のホスト プロファイルがクラスタに添付されています。
- vCenter Server のバージョンは 6.0 です。

### 手順

- 1 クラスタ内のすべての ESXi5.5 ホストをバージョン 6.0 にアップグレードします。
- 2 バージョン 5.5 のホスト プロファイルに合わせて、アップグレードされたホストを修正します。
- 3 クラスタ内のいずれかのアップグレード済みホストから新しいホスト プロファイルを抽出します。  
ホスト プロファイル ポリシーのパラメータがいくつか変更されています。詳細については、[応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出](#)を参照してください。
- 4 バージョン 6.0 のホスト プロファイルをクラスタに添付します。
- 5 バージョン 6.0 のホスト プロファイルに照らし合わせて、クラスタを修正します。
- 6 vCenter Server をバージョン 6.7 にアップグレードします。  
vCenter Server の構成は変更されません。
- 7 クラスタ内のすべての ESXi ホストをバージョン 6.7 にアップグレードします。  
ホストのカスタマイズの編集操作およびホスト プロファイルの編集操作は実行できません。[KB 2150534](#) を参照してください。コンプライアンス チェック、ホスト プロファイルの添付、およびホストの修正操作は実行できます。
- 8 バージョン 6.0 のホスト プロファイルに照らし合わせて、クラスタ内の ESXi ホストを修正します。  
ホスト プロファイルに関するすべての設定が適用されます。
- 9 ESXi 6.7 ホストから新しいホスト プロファイルを抽出します。  
ホスト プロファイル ポリシーのパラメータがいくつか変更されています。詳細については、[応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出](#)を参照してください。
- 10 バージョン 6.7 のホスト プロファイルをクラスタに添付します。  
ホストのカスタマイズ データが自動的に入力されます。  
ホスト プロファイルのすべての操作を使用できます。

## ステートフル ESXi 6.0 ホストのみが含まれる環境

クラスタにステートフル ESXi 6.0 ホストが含まれている場合は、既存のワークフローを使用して、vCenter Server のバージョンを 6.0 から 6.7 にアップデートする場合のバージョン コンプライアンス エラーを解決します。

ホスト プロファイルを vCenter Server と同じバージョンにアップグレードすることをお勧めします。

### 前提条件

- クラスタに含まれるのは ESXi 6.0 ホストのみである必要があります。
- バージョン 6.0 のホスト プロファイルがクラスタに添付されています。
- vCenter Server のバージョンは 6.0 です。

### 手順

- 1 vCenter Server をバージョン 6.7 にアップグレードします。

vCenter Server の構成は変更されません。

- 2 クラスタ内のすべての ESXi ホストをバージョン 6.7 にアップグレードします。

ホストのカスタマイズの編集操作およびホスト プロファイルの編集操作は実行できません。[KB 2150534](#) を参照してください。コンプライアンス チェック、ホスト プロファイルの添付、およびホストの修正操作は実行できます。

- 3 (オプション) 既存のホスト プロファイル バージョン 6.0 を使用するために、1 台の ESXi ホストをバージョン 6.0 のままにしておきます。

- 4 バージョン 6.0 のホスト プロファイルに照らし合わせて、クラスタ内の ESXi ホストを修正します。

ホスト プロファイルに関するすべての設定が適用されます。

- 5 (オプション) 既存のホスト プロファイル バージョン 6.0 を使用するには、以下の手順をスキップします。

- 6 ESXi 6.7 ホストから新しいホスト プロファイルを抽出します。

ホスト プロファイル ポリシーのパラメータがいくつか変更されています。詳細については、[応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出](#)を参照してください。

- 7 バージョン 6.7 のホスト プロファイルをクラスタに添付します。

ホストのカスタマイズ データが自動的に入力されます。

ホスト プロファイルのすべての操作を使用できます。

## vCenter Server バージョン 6.5 からステートフル ESXi ホストのバージョンが 6.5 より前のバージョン 6.7 へのアップグレード

バージョン 6.5 の vCenter Server をバージョン 6.7 にアップグレードするときに発生するバージョン コンプライアンス エラーを解決するには、アップグレード ワークフローを使用します。

## ステートフル ESXi5.5、 6.0、 および 6.5 ホストが含まれる環境

クラスタにステートフル ESXi5.5、 ESXi 6.0、 および ESXi6.5 ホストが含まれている場合は、既存のワークフローを使用して、vCenter Server のバージョンを 6.5 から 6.7 にアップデートする際のバージョン コンプライアンス エラーを解決します。

### 前提条件

- クラスタに ESXi5.5、 6.0、 および ESXi6.5 ホストが含まれています。
- バージョン 5.5 のホスト プロファイルがクラスタに添付されています。
- vCenter Server のバージョンは 6.5 です。

### 手順

- 1 クラスタ内のすべての ESXi5.5 ホストをバージョン 6.0 または 6.5 にアップグレードします。

アップグレード前に ESXi ホストで設定された Active Directory は、ホストが ESXi 6.0 にアップグレードされると保持されません。そのため、ホストはドメインに参加していません。アップグレード後、ホストを Active Directory ドメインに再度参加させる必要があります。

- 2 (オプション) 「ObjectNotFound」エラーが発生した場合は、次の操作を実行します。

- a ホストを右クリックして、切断します。
- b ホストを vCenter Server に再接続して、ホストを Active Directory ドメインに参加させます。

- 3 バージョン vCenter Server のホスト プロファイルをクラスタから分離します。

- 4 ESXi 6.0 ホストから新しいホスト プロファイルを抽出して、クラスタに添付します。

- 5 バージョン 5.5 のホスト プロファイルを分離します。

- 6 vCenter Server をバージョン 6.7 にアップグレードします。

vCenter Server の構成は変更されません。

- 7 クラスタ内のすべての ESXi ホストをバージョン 6.7 にアップグレードします。

ホストのカスタマイズの編集操作およびホスト プロファイルの編集操作は実行できません。[KB 2150534](#) を参照してください。コンプライアンス チェック、ホスト プロファイルの添付、およびホストの修正操作は実行できます。

- 8 バージョン 6.0 のホスト プロファイルに照らし合わせて、クラスタ内の ESXi ホストを修正します。

ホスト プロファイルに関するすべての設定が適用されます。

- 9 ESXi 6.7 ホストから新しいホスト プロファイルを抽出します。

ホスト プロファイル ポリシーのパラメータがいくつか変更されています。詳細については、[応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出](#)を参照してください。

- 10 バージョン 6.7 のホスト プロファイルをクラスタに添付します。

ホストのカスタマイズ データが自動的に入力されます。

ホスト プロファイルのすべての操作を使用できます。

## ステートフル ESXi6.5 ホストのみが含まれる環境

クラスタにステートフル ESXi6.5 ホストが含まれている場合は、既存のワークフローを使用して、vCenter Server のバージョンを 6.5 から 6.7 にアップデートする際のバージョン コンプライアンス エラーを解決します。

ホスト プロファイルを vCenter Server と同じバージョンにアップグレードすることをお勧めします。

### 前提条件

- クラスタに含まれるのは ESXi6.5 ホストのみであることが必要です。
- バージョン 6.5 のホスト プロファイルがクラスタに添付されています。
- vCenter Server のバージョンは 6.5 です。

### 手順

- 1 vCenter Server をバージョン 6.7 にアップグレードします。

vCenter Server の構成は変更されません。

- 2 クラスタ内のすべての ESXi ホストをバージョン 6.7 にアップグレードします。

ホストのカスタマイズの編集操作およびホスト プロファイルの編集操作は実行できません。KB 2150534 を参照してください。コンプライアンス チェック、ホスト プロファイルの添付、およびホストの修正操作は実行できます。

- 3 (オプション) 既存のホスト プロファイル バージョン 6.5 を使用するために、1 台の ESXi ホストをバージョン 6.5 のままにしておきます。

- 4 バージョン 6.5 のホスト プロファイルに合わせて、ESXi ホストを修正します。

修正したすべてのホストを再起動する必要があります。

- 5 すべての ESXi ホストを再起動します。

- 6 (オプション) 既存のホスト プロファイル バージョン 6.5 を使用するには、以下の手順をスキップします。

- 7 ESXi 6.7 ホストから新しいホスト プロファイルを抽出します。

ホスト プロファイル ポリシーのパラメータがいくつか変更されています。詳細については、[応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出](#)を参照してください。

- 8 バージョン 6.7 のホスト プロファイルをクラスタに添付します。

ホストのカスタマイズ データが自動的に入力されます。

ホスト プロファイルのすべての操作を使用できます。

## ステートレス ESXi 6.0 ホストのみの環境での vCenter Server 6.0 から 6.7 へのアップデート

クラスタにステートレス ESXi 6.0 ホストが含まれている場合は、既存のワークフローを使用して、vCenter Server のバージョンを 6.0 から 6.7 にアップデートする際のバージョン コンプライアンス エラーを解決します。

ホスト プロファイルを vCenter Server と同じバージョンにアップグレードすることをお勧めします。



#### 前提条件

- クラスタに含まれるのは ESXi 6.0 ホストのみである必要があります。
- バージョン 6.0 のホスト プロファイルがクラスタに添付されています。
- vCenter Server のバージョンは 6.0 です。

#### 手順

- 1 ESXi 6.0 ホストからホスト プロファイルを作成します。
- 2 クラスタにホスト プロファイルを適用します。
- 3 vCenter Server をバージョン 6.7 にアップグレードします。  
vCenter Server の構成は変更されません。
- 4 イメージ プロファイル バージョン 6.7 を使用して新しいルールを作成し、クラスタを選択します。
- 5 ルールを有効にします。
- 6 クラスタ内のすべての ESXi ホストを起動します。

すべてのホストがホスト プロファイルに準拠します。修正およびコンプライアンス チェックは実行できますが、バージョン 6.0 のホスト プロファイルは編集できません。

---

**注：** 現在のホスト プロファイル バージョン 6.0 を使用するには、以下の手順をスキップします。

---

新しいルールおよび新しいホスト プロファイルを使用してホストが起動するようになります。

- 7 (オプション) ESXi 6.7 ホストから新しいホスト プロファイルを抽出します。  
ホスト プロファイル ポリシーのパラメータがいくつか変更されています。詳細については、[応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出](#)を参照してください。
- 8 (オプション) バージョン 6.7 のホスト プロファイルをクラスタに添付します。  
ホストのカスタマイズ データが自動的に入力されます。  
ホスト プロファイルのすべての操作を使用できます。

## ステートレス ESXi6.5 ホストのみの環境での vCenter Server6.5 から 6.7 へのアップデート

クラスタにステートレス ESXi6.5 ホストが含まれている場合は、既存のワークフローを使用して、vCenter Server のバージョンを 6.5 から 6.7 にアップデートする際のバージョン コンプライアンス エラーを解決します。

ホスト プロファイルを vCenter Server と同じバージョンにアップグレードすることをお勧めします。

#### 前提条件

- クラスタに含まれるのは ESXi6.5 ホストのみである必要があります。
- バージョン 6.5 のホスト プロファイルがクラスタに添付されています。
- vCenter Server のバージョンは 6.5 です。

## 手順

- 1 vCenter Server をバージョン 6.7 にアップグレードします。

vCenter Server の構成は変更されません。

- 2 イメージ プロファイル バージョン 6.7 で新しいルールを作成するか、または既存のルールを編集して、クラスターを選択します。
- 3 [ホストの関連付けの修正]をクリックして、すべての ESXi ホストを修正します。
- 4 クラスタ内のすべての ESXi ホストを再起動します。

修正およびコンプライアンス チェックは実行できますが、バージョン 6.5 のホスト プロファイルは編集できません。

---

**注：** 現在のホスト プロファイル バージョン 6.5 を使用するには、以下の手順をスキップします。

---

すべてのホストがホスト プロファイルに準拠します。

- 5 (オプション) ESXi 6.7 ホストから新しいホスト プロファイルを抽出します。

ホスト プロファイル ポリシーのパラメータがいくつか変更されています。詳細については、[応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出](#)を参照してください。

- 6 (オプション) バージョン 6.7 のホスト プロファイルをクラスターに添付します。

ホストのカスタマイズ データが自動的に入力されます。

ホスト プロファイルのすべての操作を使用できます。

## 応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出

新しいプロファイルをホストから抽出した場合は (またはアップグレード後は)、ホスト プロファイル ポリシーのオプションおよびホストのカスタマイズ値が変更されています。これらの変更の詳細については、「[応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出](#)」テーブルを参照してください。

ESXi ホストから新しいホスト プロファイルを抽出すると、一部のポリシー オプションの値が変更されます。これらの値を保持するには、ホスト プロファイルを抽出する前に手動で保存する必要があります。「[応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出](#)」テーブルに、値が変更されているポリシー オプション、および新規に抽出されたホスト プロファイルで同じ値が保持されるオプションを示します。

ポリシー オプションを特定するには、[ホスト プロファイル] メイン ビューに移動し、抽出されたホスト プロファイルを右クリックして、[ホストのカスタマイズの編集] を選択します。

表 4-2. 応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出

ポリシー オプションのパス	ポリシー オプション	新規に抽出されたプロファイルのポリシー オプション値の変化
[セキュリティおよびサービス -> セキュリティ設定 -> セキュリティ]	UserInputPasswordConfigOption	デフォルト ユーザーの場合は、パスワードをそのまま残します (root)。 デフォルト以外のユーザーの場合は、常にユーザー入力が抽出されます。
	UserInputPasswordConfigOption	ホスト プロファイルのバージョンが 6.5 より前の場合、このオプションは抽出されません。抽出されたホスト プロファイル内に UserAccount profile プロファイルを明示的に作成する必要があります。
	UserInputAdminPasswordOption	固定に変更します。ユーザー入力値を維持しません。
[ストレージ設定 -> iSCSI インシエータの設定]	AdvancedUserInputUserConfigOption	固定に変更します。ユーザー入力値を維持しません。
	UserInputIqn	ユーザー入力値を維持します。
	UserInputAlias	ユーザー入力値を維持します。
	UserInputChapName	固定に変更します。ユーザー入力値を維持しません。
	UserInputChapSecret	固定に変更します。ユーザー入力値を維持しません。
	UserInputFirstBurstLength	固定に変更します。ユーザー入力値を維持しません。
	UserInputMaxBurstLength	固定に変更します。ユーザー入力値を維持しません。
[一般システム設定 -> 管理エージェント設定 -> SNMP エージェント設定]	UserInputMaxReceiveSegmentLength	固定に変更します。ユーザー入力値を維持しません。
	UserInputUsers	固定に変更します。ユーザー入力値を維持しません。
	UserInputV3Targets	固定に変更します。ユーザー入力値を維持しません。
	UserInputEngineId	固定に変更します。ユーザー入力値を維持しません。
	UserInputContact	固定に変更します。ユーザー入力値を維持しません。
[セキュリティおよびサービス -> セキュリティの設定] [-> セキュリティ -> Active Directory 権限]	UserInputUserName	ユーザー入力値を維持します。
	UserInputPassword	ユーザー入力値を維持します。
[ネットワーク設定]	UserInputMacAddress	使用できるデフォルト値がない場合、条件付きのプロンプト表示。
	UserInputHostName	使用できるデフォルト値がない場合、条件付きのプロンプト表示。
	UserInputIPAddress	使用できるデフォルト値がない場合、条件付きのプロンプト表示。
[詳細設定 -> 詳細オプション]	UserInputAdvancedConfigOption	固定に変更します。ユーザー入力値を維持しません。

表 4-2. 応答ファイル フィールドとホスト プロファイルの抽出 (続き)

ポリシー オプションのパス	ポリシー オプション	新規に抽出されたプロファイルのポリシー オプション値の変化
[詳細設定 -> システム イメージ キャッシュ設定]	Enable Stateless Caching	ポリシー オプションを明示的に選択する必要があります。
	Enable Stateful Install	ポリシー オプションを明示的に選択する必要があります。

**注：** 次の表には、ポリシー オプションの一部が表示されていません。新しいホスト プロファイルを抽出する前に、変更したポリシー オプションを認識する必要があります。

# ホスト プロファイルのトラブルシューティング

# 5

ホスト プロファイルのトラブルシューティングのトピックでは、vCenter Server でホスト プロファイルのタスクを実行するときに発生する可能性のある問題の解決策について説明します。

vCenter Server をバージョン 6.7 にアップグレードしたときに、インベントリ内の既存のホスト プロファイルが原因で失敗した場合は、ホスト プロファイルを含む vCenter Server のアップグレード問題について、「vCenter Server のアップグレード」を参照してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- ホストのカスタマイズ データがない
- リファレンス ホストが使用不可
- ストレージ ホスト プロファイルのコンプライアンス エラー
- ホスト プロファイルの設定の編集の失敗
- NFS データストアを使用しないホスト プロファイル
- アップグレードしたホストにレガシーのホスト プロファイルとの互換性がない

## ホストのカスタマイズ データがない

ステートレス ホストをデプロイすると、メンテナンス モードを終了する際にエラーが発生します。

### 問題

ステートレス ホストをデプロイするプロセスで、ホストのメンテナンス モードを終了する際にエラーが発生します。

### 原因

これは、ホスト プロファイルで次の条件を満たす環境で発生します。

- ホスト プロファイルがステートレス ホストで使用されている。
- ホスト プロファイルにホスト固有の設定がある。

ステートレス ホストを再起動すると、ホストのメンテナンス モードが終了しないために、ホスト プロファイルを適用できません。

### 解決方法

- ホストのカスタマイズの編集の説明に沿って、ホストのカスタマイズを行います。

- ホストで使用されるホスト プロファイルを再度修正します。
- 必要な場合は、ホストを再起動します。
- ステートレス ホストのカスタマイズについては、[Host Profiles CLI](#) でホスト プロファイルのコマンド ライン ユーティリティを参照してください。

## リファレンス ホストが使用不可

vCenter Server インベントリにホスト プロファイルを作成するとエラーが発生します。

### 問題

vCenter Server インベントリに対して、次のようなホスト プロファイル操作を実行する場合：

- ホスト プロファイルの編集。
- ホスト プロファイルのインポート。
- ホスト プロファイルのエクスポート。

ホスト プロファイルを作成するプロセスがエラーと共に失敗します。

```
There is no suitable host in the inventory as reference host for the profile Host Profile.
The profile does not have any associated reference host.
```

### 原因

vCenter Server インベントリには、作成するホスト プロファイルのリファレンス ホストとして動作する、互換性を備えたホストがありません。

### 解決方法

- ◆ 作成するホスト プロファイルと同じバージョンを使用して、vCenter Server インベントリ内のリファレンス ホストとして動作するホストを追加します。

## ストレージ ホスト プロファイルのコンプライアンス エラー

クラスタ全体で共有されていないにもかかわらず、vSphere ストレージ スタックでローカルとして検出できないストレージ デバイス（一部の SAS デバイスなど）を使用している場合に、ホスト プロファイルを適用すると、コンプライアンス エラーになる可能性があります。

ローカル ストレージ デバイスを使用することで発生したコンプライアンス エラーを解決するには、アップグレードしたプラグイン可能なストレージ アーキテクチャ (PSA) ホスト プロファイル ポリシーを使用します。

デバイスがローカルとして検出されているかどうかを判別するには、ESXi シェルで `esxcli storage core device list -d naa.xxxx` コマンドを実行して、デバイスの [ローカル] 設定を確認します。このコマンド、およびディスクまたは LUN を識別する方法の詳細については、[KB 1014953](#) を参照してください。

**注：** `vm-support` コマンドを実行して取得する ESXi 診断データには、ストレージ ホスト プロファイル、PSA、NMP、Virtual Volumes データなどのホスト プロファイル情報が含まれます。パスワードなどの機密情報は収集されません。

## シリアル接続 SCSI (SAS) デバイスのコンプライアンス エラー

この手順により、vSphere ストレージ スタックでローカルとして検出されない SAS デバイスのコンプライアンス エラーが解決します。

### 前提条件

リファレンス ホストからホスト プロファイルを抽出します。構成方法については、[ホスト プロファイルの作成](#)を参照してください。

### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] のメイン ビューに移動し、編集するホスト プロファイルを選択します。
- 2 [設定] タブをクリックし、[プロファイルの編集] をクリックします。
- 3 [ストレージ設定] - [プラグイン可能なストレージ アーキテクチャ (PSA) 構成] - [PSA デバイスの共有] - [デバイスの名前] の順に選択します。
- 4 クラスタ全体で共有されていない各デバイスで、[デバイスがクラスタ全体で共有されています] を無効にします。

---

**注：** [デバイスがクラスタ全体で共有されています] のデフォルト設定は、ローカルとして検出されたデバイスでは無効に、ローカル以外のデバイスでは有効になります。この設定を使用すると、ストレージ ホスト プロファイルは、コンプライアンス チェック中にローカル デバイスを無視できます。

---

PSA デバイスの [デバイスがクラスタ全体で共有されています] 設定は、ホスト プロファイルで構成する必要があるクラスタ内のデバイスを特定するのに便利です。この値をクラスタ内のデバイスに正しく設定すると、非共有デバイスに起因する準拠エラーが排除されます。

- 5 変更を有効にするには、リファレンス ホストに対してホスト プロファイルを修正します。

## SAN ブート LUN デバイスのコンプライアンス エラー

この手順は、クラスタ全体で共有されているにも関わらず論理的には ESXi ホストのローカルである SAN ブート LUN デバイスのコンプライアンス エラーを解決します。

このコンプライアンス エラーの発生を避けるには、リファレンス ホストからホスト プロファイルを抽出する前に、[デバイスがクラスタ全体で共有されています] の値を [False] に設定します。この値は、`esxcli storage core device setconfig -d naa.xxxx --shared-clusterwide=false` コマンドを使用して無効にすることができます。`naa.xxxx` は、`naa` の形式で生成された一意のデバイス識別子です。

### 前提条件

リファレンス ホストからホスト プロファイルを抽出します。構成方法については、[ホスト プロファイルの作成](#)を参照してください。

### 手順

- 1 [ホスト プロファイル] のメイン ビューに移動し、編集するホスト プロファイルを選択します。
- 2 [設定] タブをクリックし、[プロファイルの編集] をクリックします。

3 [ストレージ設定] - [プラグイン可能なストレージ アーキテクチャ (PSA) 構成] - [PSA デバイスの共有] - [デバイスの名前] の順に選択します。

4 チェック ボックスをオフにすることにより、ホスト プロファイルで [デバイスがクラスタ全体で共有されています] を無効にします。

ターゲット ホストにホスト プロファイルを適用すると、リモート起動 LUN デバイスの起動デバイスの設定が、リファレンス ホストからターゲット ホストにコピーされます。

5 (オプション)

6 (オプション) [ストレージ設定] - [プラグイン可能なストレージ アーキテクチャ (PSA) 構成] - [ホストの起動デバイスの設定] の順に選択し、起動 LUN ID が正しくキャプチャされていることを確認します。

7 変更を有効にするには、リファレンス ホストに対してホスト プロファイルを修正します。

ホスト プロファイルを再抽出する必要がある場合は (共有 SAN 起動 LUN をクラスタに接続する場合など)、以前に esxcli で構成したデバイスの [デバイスがクラスタ全体で共有されています] 設定を再構成する必要はありません。

## ホスト プロファイルの設定の編集の失敗

ホスト プロファイルを編集すると、エラーが表示されます。

### 問題

バージョン 6.5 にアップグレードされた vCenter Server インベントリで、バージョン 5.1 で使用したホスト プロファイルの設定を編集すると、次のいずれかのエラーが表示されることがあります。

```
Unexpected status code: 503
```

または

```
There are no hosts available in the inventory at the version for the selected Host Profile
```

### 原因

vSphere 6.5 では、バージョン 5.5 以降のみのホストおよびホスト プロファイルをサポートします。

### 解決方法

- バージョン 5.5 以降にアップグレード済みのホストから、ホスト プロファイルを抽出してください。
- [ホストから設定をコピー] オプションを使用して、バージョン 5.5 以降にアップグレード済みのホストから設定をコピーします。

**注:** [ホストから設定をコピー] オプションを使用して、既存のホスト プロファイル内の設定を上書きするか、これをデフォルト値に設定します。



## NFS データストアを使用しないホスト プロファイル

NFS データストアに対するホスト プロファイルのコンプライアンスの確認に失敗します。

### 問題

使用するホスト プロファイルに ESXi ホストが準拠していることを確認すると、NFS データストアに非準拠のステータスが表示されます。コンプライアンスの確認では、ESXi ホストにマウントされた NFS データストアを追加のデータストアとして検出します。

### 原因

次の 2 つの条件が満たされると、修正またはコンプライアンス確認のエラーが発生します。

- 抽出されたホスト プロファイルに NFS ストレージ (NasStorageProfile) が含まれない。
- ホスト プロファイルを使用する ESXi ホストに、NFS ストレージがすでにマウントされている。

### 解決方法

- 1 ホスト プロファイルでダミーの NFS データストアを作成します。
- 2 NFS ストレージ プロファイルが完全に無効になるように、ダミーの NFS データストアを無効にします。

## アップグレードしたホストにレガシーのホスト プロファイルとの互換性がない

レガシーのホスト プロファイルが添付された ESXi ホストをアップグレードすると、再起動後に準拠していない状態になります。

### 問題

ホストを最新の ESXi バージョンにアップグレードし、そのホストに添付されているレガシーのホスト プロファイルを修正すると、ホストの再起動後にコンプライアンスが非準拠の状態に更新されることがあります。

### 原因

ESXi 6.7 以前のホストに添付され、以下のサブプロファイルを含むレガシーのホスト プロファイルを使用しています。

- Misc.LogPort
- host/vim/vmvisor/plugins/vmware\_\*

### 解決方法

- ESXi ホストがレガシーのホスト プロファイルに準拠するようにします。
  - a [ホスト プロファイル] のメイン ビューから、編集するホスト プロファイルを右クリックし、[ホスト プロファイルの編集] を選択します。
  - b [ホスト プロファイルの編集] ページでホスト プロファイルの編集を無効にします。
  - c [ホスト プロファイルのコンプライアンスの確認]

- レガシーのホスト プロファイルを ESXi ホストと同じバージョンにアップグレードします。
  - a レガシーのホスト プロファイルを右クリックし、[ホストから設定をコピー] を選択します。
  - b 設定をコピーするアップグレードされた ESXi ホストを選択し、[OK] をクリックします。